

巻 頭 言



新潟県知事 花角 英世

「住んでよし、訪れてよしの新潟県」 に向けて

本年7月「佐渡島(さど)の金山」が、ユネスコ世界遺産委員会において、人類の貴重な遺産として世界遺産一覧表への記載が決定したことは本県にとって明るいニュースであり、御支援、御協力いただいた全ての方々に深く感謝申し上げます。県といたしましては、国や佐渡市と連携して、資産の保存・活用にしっかりと取り組み、この素晴らしい遺跡を未来に継承するという責務を果たすとともに、国内外から多くの方々に本県を訪れていただき、「佐渡島の金山」の文化遺産としての価値や、佐渡・新潟の魅力を知っていただけるよう、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

さて、新潟県は、本州日本海側で唯一、韓国、ロシア、中国の3つの総領事館を有する強みに加え、国際港湾、国際空港といったインフラや、これまでの友好交流により培った人的ネットワークを活用して、北東アジア地域との交流を中心に進めてきました。また、経済成長が続き、市場としても魅力的な東南アジアとの交流活性化に向けて、昨年11月には、ベトナムのビンロン省、タインホア省と「交流協力に関する覚書」を締結、今年8月には現地を訪問し、人材マッチングやビジネスマッチングなどの交流事業を行ったところです。

本県において人口の減少・流出が続く中、本県の経済を活性化させ競争力を強化する観点から、諸外国との交流を一層拡大し、海外の成長市場の活力を積極的に取り込んでいくことが重要と考えており、官民の関係者が連携した交流促進の取り組みや、海外との交流を担うグローバル人材の育成、事業者ニーズを踏まえた外国人材の受入れや受入環境づくりを更に進めていく必要があるものと考えております。

このため、世界でも競争力を発揮できる県産品の輸出の重点的な支援や、各企業の状況に対応したきめ細かな支援など、関係機関と連携し県内企業の海外展開を支援するとともに、外国人の来訪を促進するため、各市場の特性等を踏まえた外国人観光客の誘致活動や、県内大学等の外国人留学生確保の取り組みを進めていく必要があるものと考えております。また、グローバル人材の育成に向けた日本人留学生の増加や、外国人が地域社会で安心して生活でき、その能力を発揮して活躍できる、多文化共生社会の実現にも取り組んでいくこととしております。

諸外国との交流を促進し、ヒト・モノ・情報などが活発に行き交う日本海側の国際拠点としての新潟県の実現に取り組むことにより、県民の皆様が、新潟に住んでいることを誇りに思い、これからも住み続けたいと思える、そして、国内外の方々が新潟に魅力を感じ、訪ねてきていただける「住んでよし、訪れてよしの新潟県」を目指してまいります。